大阪府住宅供給公社

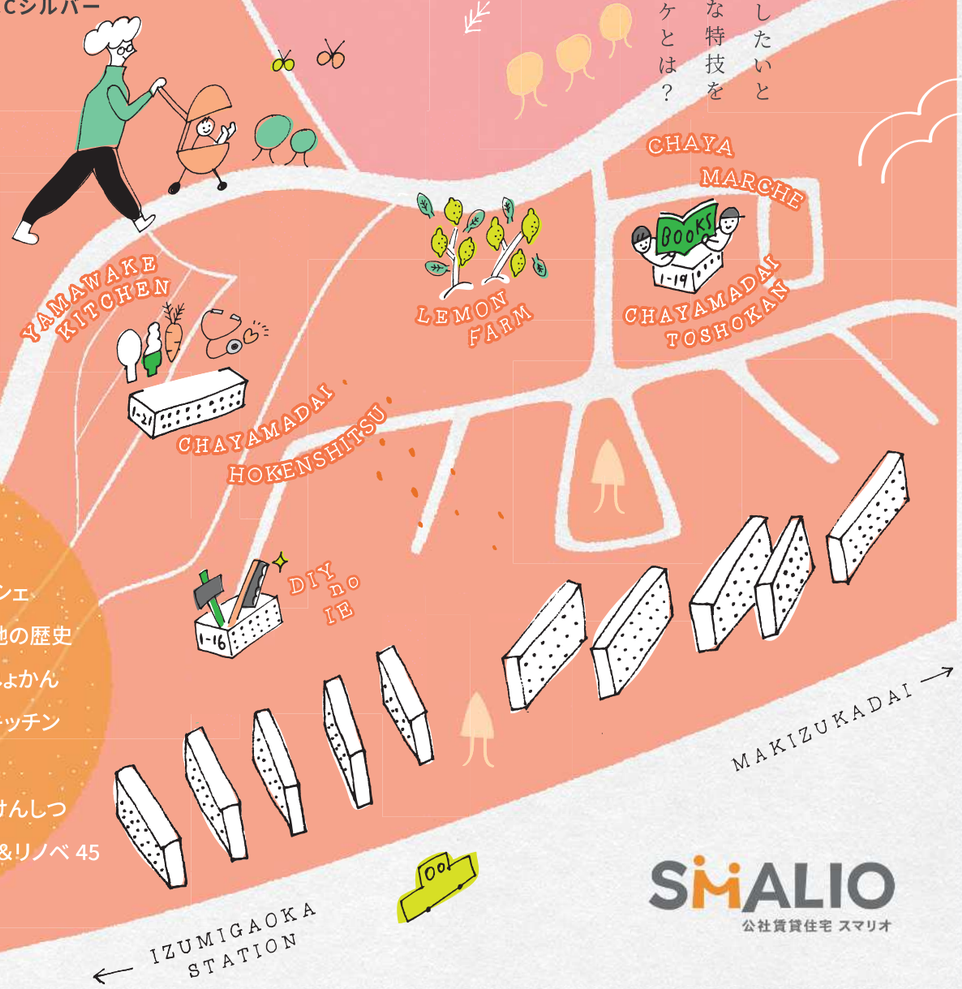
もっと知りたい！ 茶山台団地

泉ケ丘駅より徒歩約10分圏内 ｜ 28棟［923戸］

- 「茶山台としょかん」
  マイクロライブラリーアワード受賞
- 「やまわけキッチン」
  厚生労働省健康寿命をのばそう！アワード厚生労働大臣優秀賞
- 「ニコイチ®」
  グッドデザイン賞受賞
- 茶山台団地再生プロジェクト
  日本最大級のクリエイティブアワード　BCc部門　ACCゴールド
  ME部門　ACCシルバー

茶山のいいとこ、いろいろ。

泉北ニュータウンを象徴する団地群。ここには、自分達の手で団地を良くしたいと活動する住民が多数存在する。多様な特技を持つ人が次々と集まってくるそのワケとは？



INDEX

01-02　16棟マルシェ
03-04　茶山台団地の歴史
05-06　茶山台としょかん
07-08　やまわけキッチン
09-10　DIYのいえ
11-12　茶山台ほけんしつ
13-14　ニコイチ®&リノベ45

SMALIO 公社賃貸住宅 スマリオ

響きあうダンチ・ライフ
団地に関わる人々のリアルな暮らしをWEBで配信中

	月	火	水	木	金	土	日
茶山台としょかん			13-17時		10-12時 13-17時	10-12時 13-17時	
やまわけキッチン	11-15時	11-15時			11-15時	11-15時	
DIYのいえ						10-17時	10-17時
茶山台ほけんしつ	10-12時 出張オークカフェ	10-11時半 まちかど保健室	10-12時 13-15時 みんなの保健室	10-12時 13-15時 みんなの保健室	10-14時半 みんなの保健室	9-17時半 団地ライフラボ at 茶山台	9-17時半 団地ライフラボ at 茶山台

BLDG. 16

MARCHE

1

16棟マルシェ

bldg.16 MARCHE

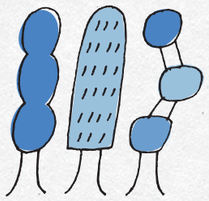
YAMAWAKE KITCHEN

DIY no IE

CHAYAMADAI TOSHOKAN

MACHIKADO HOKENSHITSU

LEMON FARM



MINNANO HOKENSHITSU

OAK CAFE

茶山台団地の拠点が大集合
年に一度のフェスティバル!

2020年、「茶山台としょかん」のとしょ係が声をあげ、初めての試みとして始まった。それは、今まで個々で活動していた茶山台団地内の拠点が一堂に会したご近所マルシェ。人通りの少ない16棟の中庭で、「茶山台としょかん」が毎月行う*0円マーケットで集まった4年越しの食器類や、「やまわけキッチン」作の助六寿司の提供、「DIYのいえ」の木エワークショップ、「まちかど保健室」のロコモチェックなどが実施され、普段は行事に参加しない住民の顔も見え、多世代の交流で賑わった。以来年に一度のお祭りとして、毎年規模を拡大しながら行われるように。2回目からは、団地内の各拠点が中心となる16棟マルシェ実行委員会を立ち上げ、実行委員会形式で運営を行うように。横の拠点同士が協力し繋がり合うことで、さらに心地よい居場所に進化し続けている。

*後に0縁マーケットに改名

少しずつ、でも着実に。

“つながり”から広がる茶山台団地の歩み。

CHAYAMADAI HISTORY 2

2015

2月 コーシャミライカイギ実施

3月 白石さん転入（第2期としょ係）

4月 東恭子さん転入（第1期としょ係サポート役）

5月 0円マーケット開始

6月 団地ウェディング＆第2期としょ係引き継ぎ式開催

9月 オトナカイギ開始

10月 健康促進のお手伝い
まちかど保健室

地域の医療法人や大学と連携し、地域住民を対象に保健・医療・介護などの健康相談や講話を年3・4回集会所で開催。血管年齢や骨密度のチェック、血圧測定も実施し、住み慣れたまちで健康に長く暮らせることを目標にしている。

11月 東さん転入（第1期としょ係）

12月 本箱作りワークショップ開催（茶山台としょかん開始）

1月 としょだより創刊

2016

1月 住民アンケート実施

2月 DIYのいえ始動（中島久仁さん〔カザールホーム〕）

4月 茶山台地区子ども会復活

11月 やまわけキッチン営業開始（湯川 まゆみさん〔NPO法人 SEIN〕）

2017

6月 第12回日本マーケティング大賞奨励賞受賞

9月
未来の資産をみんなで育む
レモン畑

泉北レモンの街ストーリー® 苅谷 由佳さん

レモンを介して地域活性に取り組む「泉北レモンの街ストーリー®」と公社がコラボし、使われていなかった敷地内の斜面に2017年9月30日、10本の植樹が行われた。翌年8個しかなかった実は、その次の年には89個に。今年の収穫祭では、採れたてがレモンティーとして振る舞われ、令和ベビーから高齢の方までが集った。団地住民による「茶山台レモンの会」も結成。今後の活動が楽しみだ。

使ってね！

公社の職員から、「やまわけ」スタッフでもある白石さんに贈呈。レモネードや惣菜に調理された。

11月 道しるべ

2018

2月 「まちかど保健室」が第5回大阪府健康づくりアワード地域部門奨励賞受賞

6月 ちゃやま会議開始

6月 「DIYのいえ」が都市住宅学会長賞を受賞

7月 NPO法人団地ライフラボat茶山台設立

10月 まちかど保健室定期開催

11月 16棟マルシェ開催

12月 「茶山台としょかん」実行委員会発足

2019

10月 ハロウィンゴミ拾い

12月 茶山台団地再生が「PRアワードグランプリ」でグランプリ受賞

2020

新型コロナウイルス感染症 流行

やまわけキッチンデリバリー開始

2021

10月 住民主導の自立した地域コミュニティーに向けた「茶山台団地構想」及びロジックモデルを策定、プラットフォーム会議の開始

10月 茶山台ほけんしつオープン（団地内のスマートエイジング拠点）

2016年から茶山台としょかんで開催されていた「まちかど保健室」や「出張オークカフェ」、団地住民が立ち上げた「団地ライフラボat茶山台」の三者が共同運営する「茶山台ほけんしつ」が新たな拠点として発足。福祉や介護のプロが常駐し、体操や健康管理、カフェやレクリエーションができる場所。

2022

10月
ハロウィン仮装（仮想）避難訓練開催

茶山台としょかんと子ども会が主催する、住民のアイデアから生まれたイベント。いざという時に備えて、団地住まいの高齢者と子ども達が一緒に避難できるように、災害時を仮想して避難所までのルートを確認。ハロウィンの仮装をして楽しみながら備える画期的な行事。

10月
出張オークカフェ開始

茶山台団地から坂を下った茶山台近隣センター内にある特別養護老人ホーム併設のオークカフェが、高齢で坂の上り下りが大変になった住民に向けて、茶山台としょかんで月2回の出張カフェを開始。コーヒーを飲みながら世間話をして介護や健康の相談がしやすい環境に。

2023

12月 茶山台の現状・課題・めざす将来像を考える「茶山台住民ワークショップ」開催

2024

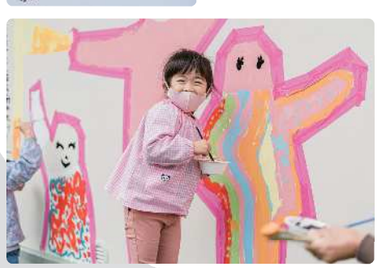
まだまだ進化中！

3月 住民主導の自立した地域コミュニティーに向けた「茶山台団地構想」及びロジックモデルを策定、プラットフォーム会議の開始

11月
描いた絵が一生の思い出に
茶山台としょかん 壁画ワークショップ

Pittore Felice 花本 ゆきのさん

無機質な団地のイメージを改善する景観事業の一貫として、1月28日から2日間に渡って集会所でもある「茶山台としょかん」にて実施。講師には、地元堺市で活躍するアーティストを迎え、丹念な打ち合わせの末、子ども達の人型を取り、その中に自由に絵を描く形で行われた。事前予約はたちまち満員になり、大人と子ども合わせて79名が参加。遠くからでも目を引く華やかな外観に。



団地の壁もデザインしています

大蓮公園に面した住棟の外壁サインがシックでオシャレに変化したり、階段室がボタニカルに塗装されたりと、団地の壁もオシャレに彩っています。

WALL ART

土曜日の朝の顔
ちゃやマルシェ

えびすの青果 戎野 哲也さん

えびすの青果さんがワゴンいっぱいに新鮮な旬の野菜や果物を載せてやって来ると、開店前から住民さんが待ち構え、心待ちにしているのが伺える。丘陵地の起伏や団地の階段の上り下りが困難な年配層への思いやりから生まれたマーケットだが、子ども達が開店準備などの手伝いに勤しむ姿が微笑ましい。毎週土曜日は青空の下、多世代が交流し会話に花が咲く、なくてはならない人気コンテンツ。

「茶山台としょかん」

CHAYAMADAI TOSHOKAN

3

愛され上手な仕掛け人

「僕が団地に住みながら実践するのは？」

全ての始まりはこの一言からだった。２０１５年２月、大阪府住宅供給公社（以後、公社）の設立 50周年事業として始まった、団地のこれからをみんなで考える「コーシャミライカイギ」の一環で、団地再生のブランディングに関わっていた東善仁さんが全社員１５０人にワークショップを実施。そこで生まれた 50の団地活用アイデアを実現するべく、ついつい口走った言葉が、この茶山台団地を大きく変えるキッカケとなった。まず着手したのは、使われなくなった集会所を、誰もが心地良く集える場所として運営することだった。本を介して人と人との繋がりが生まれる「まちライブラリー」を参考に、本の貸し借りだけではない「茶山台としょかん（以下、としょかん）」をつくることに。

同年　12月、本箱作りのワークショップを開催。当日、参加者は０人！閑古鳥の鳴く中、外を歩く人をスカウトして行われた。手作りの本箱ができ上がると、集会所に変化が起こる。読まなくなった絵本や漫画の寄付を募ると、児童書や小説なども集まるように。しかし、中まで入って寛ぐ人はいなかった。そこで、東さんは木製の屋台を手作りして外でコーヒーを振る舞ったり、得意のスティールパン演奏で前を通る住人にアプローチしたところ、子どもにうけて少しずつ話題に。そんな活動がＮＨＫで報道されると、信頼性が一気に上がり、住民の一員として認知されるようになった。誰に対しても分け隔てなく振る舞う東さんの人柄は、子ども達に大人気。

お世話好きの団地住人も手作りのお菓子やコーヒーの差し入れをして息子のようにかわいがり、「としょかん」は子ども達の放課後の遊び場であり、大人たちの憩いの場となっていった。独身だった東さんが結婚し、翌２０１６年４月に妻の恭子さんが活動に参加。柔らかな雰囲気がプラスされたことで安心感が増し、子連れのママからも重宝されるように。赤ちゃんや小学生、主婦や高齢者と様々な年代の人々が同じ時間を共有し、それはかつて盛況だった団地を彷彿させる光景だった。

さらに新たな助っ人も現れた。後に第２期としょ係となる白石千帆さんが引っ越してきたのだ。団地生活に不安があった白石さんは、事前に「としょかん」のＳＮＳページで東さんと連絡を取り合い「ここには頼れるコミュニティーが存在する」と移住を決意したそう。

女性陣による新たな風が「としょかん」の繁栄に拍車をかけた。「使わなくなった食器や洋服の循環ができないか」という白石さんのアイデアから生まれた「０円マーケット」は、毎月恒例の人気行事となる。

第２章の始まり

東さんの任期が終わり、としょかんは休館期間を迎えるのだが、みんなの「サードプレイス」の場としての環境づくりを継続するため、地域の課題解決に向けて取り組むＮＰＯ法人ＳＥＩＮ（サイン）（以下、ＳＥＩＮ）が公募で選ばれ、第２期としょ係として、白石さんが就任した。

誰からも慕われる白石さんは、どうすれば地域がより良くみんなが楽しく安全に暮らせるか、常にアンテナを張って情報を収集。コミュニティーの繋がりを維持したり新たに構築したりと猛烈な努力家でもある。それゆえ老若男女が「白石さん居てる？」と訪ねて来る。長年住んでいる人よりも自治会の規定などに詳しいので、スマホの使い方からゴミの出し方まであらゆる相談事、困り事が寄せられる。平常の「としょかん」は、特別に何をする訳でもない。ただそこにとしょ係である白石さんやスタッフが常駐している。大人が見守っているだけで子ども達は安心し、遊んだり宿題をしたり自由な時間を過ごす。「ここに来れば安心する」中立地帯として、「としょかん」は開放されている。

水・金・土と、いつもの風景として開館していた「としょかん」も、コロナ禍でまたしても閉館を余儀なくされた。そんな中でも「としょだより」やＳＮＳなどの情報発信を継続。本の修理や処分もこまめに行い、開館に向けて準備を続けた。感染症だけでなく、災害や事件など、個人では抱えきれない大きな事象が起こった時に、少しでも頼れるコミュニティーがあるのは、何より心強く有難い存在ではなかろうか。

進化するコミュニティーの形

第１期としょ係の東さんが試行錯誤しながら構築した土台を継承しながら、「現状であり続ける大切さ」を信念に第２期としょ係のＳＥＩＮ白石さんが引き継ぎ、コロナ禍で以前までの常識さえも覆すほどの変化を経験。それまで一人が中心となって担っていたとしょ係を、２０２１年１２月にチーム化し、持続可能な運営体制を整え、住民を主体に多様な担い手で運営を行う実行委員会形式へと移行。今までのスタッフだけでなく大学生のボランティアも参加するようになり、２０２３年４月には、桃山学院大学生の長堂さんがスタッフとして加わり、土曜日を担当。沖縄出身の長堂さんは茶山台が地元に似ていると言う。程よく田舎だけど駅前には何でも揃っている。「としょかん」へはみんなに会いに来ているそうだが、住民も長堂さんに会いにいつものメンバーがやって来る。担当の土曜日はスマホのお困り相談の日で、好きなアーティストの話で盛り上がったり、子ども達が手紙や似顔絵を描いてくれるのが嬉しいそう。単身大阪で暮らす彼女にとって、「としょかん」は親戚が増えた感覚で「子どもを遊ばせることで土日しか休めないお母さんが休んでくれたら嬉しいし、子どもも大人も、地域の大人と関われる場所、何かあった時の逃げ場になれば」と話す。変わらない日常の提供と、地域を見守る拠点として、茶山台住民の拠り所となっている。

茶山台としょかん HISTORY

第１期としょ係の東です

2015 年 12 月

まずは本箱を作るところから始まった

妻の恭子です

2016 年 5 月

まだ使えるけれど要らなくなった物を提供する「０円マーケット」開始

●月１回土曜日に開催中

2016 年 5 月

大人気！野菜の移動販売「ちゃやマルシェ」開始

●毎週土曜日に開催中

2016 年 6 月

団地住民による東夫妻のウエディングを開催。約 150 人が祝福

第２期としょ係の白石です

2017 年 6 月

としょ係が、東さんから白石さんにバトンタッチ

2017 年 9 月

ここから、いろいろな企画が生まれる「オトナカイギ」開始

●毎月最終金曜日に開催中

5			1
6			
7	4	3	2

1_「DIY のいえ」とコラボしてオシャレに生まれ変わった本棚前で子ども達と楽しそうにトランプする、学生スタッフの長堂さん。2_ 夏休みには学習サポートを実施。一人では難しい読書感想文や算数の問題などを地域の人や大学生がお手伝い。3_ としょかんのスタッフが集まる「としょかん実行委員会」を毎月 1 回開催。日常の様子をシェアしたり課題を話し合う。4_ 開館日のシンボルとして活躍した東さん作の屋台は、「DIY サポーターズ」の手によってチラシラックへとステキに変貌。5_ 団地住民だけでなく、誰でもウェルカムな温かい雰囲気。プラレールやシルバニアファミリーなどのおもちゃも豊富。6_ 任期を終えた東夫妻の、「としょかん」業務最後の日。サプライズで卒業式が行われ、涙に包まれた。7_ 毎週金・土曜日の午前中に実施する「スマホのお困りごと相談会」が大好評。

INFO

堺市南区茶山台２丁１番（茶山台団地 19 棟集会所内）

水 13:00 ～ 17:00、金・土 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00

茶山台としょかん～こちら団地の集会所！～

chayamadai_toshokan

YAMAWAKE KITCHEN

4

「やまわけキッチン」

4 | 1
7 6 5 | 2
3

1. 2019 年 11 月 5 日に開催された、オープン 1 周年の「やまわけるフェスティバル」終了時に、お祝いのケーキを"やまわけ"たスタッフの面々。お疲れ様の笑顔が輝く。2_「ほんまはいつもやりたい」という "やまわけスタイル"で、人気メニューがワンコインで提供された。住人お手製の器に愛情を感じる。3_ 湯川さんを慕っていろいろな人がやってくる。この日は「湯川会議」と称した、教育や子育てを地域で考える場として「やまわけ」を提供。4_DIY メンバーが作ってくれた岡持ちを持って宅配へ向かう湯川さん。5_ 旬の野菜がたっぷり味わえる「やまわけ盛り定食」と、コロッケなどの揚げ物がつく「やまわけ揚げ物定食」。6_ 一年を締めくくる大イベントおせち作りは大切な恒例行事に。7_ コロナ禍に、臨時休校中の子どもを見守る取り組みとして始まった「おかず BOX」は毎月実施。

SHOP DATA
堺市南区茶山台 2 丁 1 番 21 棟 302 号
月・火・金・土 11:00 ～ 15:00

丘の上の惣菜屋さん「やまわけキッチン」
yamawake_kitchen2018

あったら良いなをみんなでつくる

「としょかん」と、切っても切れない関係の「やまわけキッチン(以下、やまわけ)」。なぜならそれは、どちらもＳＥＩＮが運営しているから。始まりは「としょかん」で月1開催の「オトナカイギ」で行われた、住民のニーズを知るアンケート調査からだった。そこで浮き彫りになったのは、団地住民が買い物や日常生活の支援を必要としていることと、生活満足度や充実度が低い方がいるということ。ちょうどそのタイミングに家族で茶山台団地に越してきた法人代表の湯川まゆみさんは、「自分自身も住人として豊かに暮らしたい」「みんながやりたいけどつまづいている」と知り、２０１８年秋を目標に団地の空室に惣菜カフェをつくることに。支援財団から助成金の１１０万円が確保できたことも後押しとなった。それだけでは資金不足のため、「住民のニーズ・団地の空室活用・住民が集うスペースづくり」の一石三鳥をコンセプトに、クラウドファンディングも実施。

ＤＩＹをすることも最初から決めていた。スタッフは丸ノコや電動ドライバーを持ったこともなかったが、「慣れたら何とかなる！」と段々腕も上達し、大工をしている住人や、手先が器用な諸先輩方に助けられた。

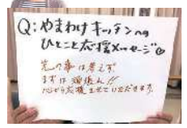
ボーイスカウトで腕に自信がある住人は「床は任せろ」と、一番大変な床張り作業に欠かさず来てくれたり、90代のお爺さんとは「船の甲板を思い出すな～」と床磨きをしていた戦時中の話に。毎回のように来てくれたＤＩＹの常連は、やがて惣菜カフェ「やまわけ」の常連へとシフトする。まるで我が子のように、大事に思ってくれているのだ。

スーパーヒーローなんかじゃない

２０１８年 11月、オープン日は開店時間前からＴＶや新聞の取材が複数入り、比較的高齢の住民が列をなした。すると「高齢者における買い物難民の救世主！」と印象づけられてしまった。しかし「やまわけ」スタッフだけでまちの人達を支えるのには限界がある。今あるヒトやモノといった、このまちの資源を使ってお互いに支え合えたら…。「一人ひとりが自分事のように関われば、それがこのまちの住みやすさや豊かさに変わるのではないか」と湯川さんは考える。みんなが対等でいられる「やまわけ」という店名にも、そんな想いが汲み取れた。

代表の湯川です

やまわけキッチン
MEMORIES



クラウドファンディング開催時にもらったメッセージが心に沁みる

DIY は作業日数 24 日、作業者 181 名、見学者 51 名が関わった

お料理上手なマダム達とのワイワイ試食会は、とっても楽しい時間

茶山台ラバーが集まる委託販売。団地への引越しを決意した「まるばん屋」さんもその一人

1 周年記念にはテラス席を用意。多世代が集う微笑ましい団らん風景

温かな言葉は、いつも支えてくれる家族のような存在だからこそ。想いが届いた瞬間

苦労もみんなで〝やまわける〟

茶山台団地に住みながら、平日は「やまわけ」、土日は堺駅近くにあるコミュニティーカフェを運営していた湯川さん。どちらも〝地域に根ざす〟ことを目標にしていたが、住居と職場の距離もあり、理想と現実とのギャップに悩むようになっていった。娘が「ただいま」と言える場所が自分の職場だと良いなと思うようになったそう。「やまわけ」は、ちょうど娘の通学路にあった。

小学校に上がったばかりの娘の子育ては大変で「ずっと仕事のことを考えていたら娘の言葉を聞いていなかった」と言う。娘の気持ちを理解するには、時間と心の余裕が必要だった。1年経ち、「やまわけ」に拠点を集約した今は、心にも余裕が生まれ「校区で働くといろいろなことが見えてきた」と語る。近所の人や見守り隊のおじさんが「今日は元気やったぞ」と娘の様子を教えてくれる。

湯川さんの誕生日のお祝いには、準備段階から支え続けてくれた住民達が、まるで家族のように労ってくれた。ケーキには「頑張りすぎたらあかんよ」の文字が。「しんどい思いもやまわけでしょ」とかけてもらった温かい言葉を聞いて、今まで湯川さんがやってきた想いが、深く関わってくれた方には届いていると確信した。

元々この茶山台の団地で育ち、13年程の間、堺東に住んだり海外に目を向けていた時期を経て、再びこの地に戻ってきたことで、自分にとって大切なまちだと気付いた湯川さん。「ここが一番落ち着く」と言う彼女がつくる空間だからこそ、初めて訪れた人も「どこか懐かしい、実家に帰って来た雰囲気」と感じるのではないだろうか。

1年経って、思い描いていた景色や目指していた空気感、住民との関係性がある程度つくれた頃、新型コロナウィルスが流行り始める。店内が密にならないようにテイクアウトのお弁当を取りに来る時間予約ができるようＬＩＮＥの仕組みを作り、２０２０年3月には配達をスタート。ＤＩＹメンバーが岡持ちを作ってくれて一日7～8件、多くて　10件の配達があり、一ヶ月丸ごと予約する人も。玄関まで入ることも多く家の状態も分かり、配達をしながら住民の見守りができるようになった。「まだまだ一部の住民さんしか来られていない」という課題も、人に頼るのが苦手な方が頼りやすい状況になり、今まで関わりのなかった住人からの注文も増えていった。マスクが不足した時には手作りのマスクや、「ほっこりしてもらいたいから」とご好意で焼いたシフォンケーキが「やまわけ」に届けられ、それらをお弁当と一緒に配り、直接は繋がれていなくても間接的に人との繋がりを感じられた時期でもあったそう。また、季節に沿った食の提供を以前より意識してするようにもなった。ソーシャルディスタンスで楽しむお花見をしたり、冬はおはぎや恵方巻き、おせちなど、外出を自粛している人達に少しでも喜んでもらえるようにと考えを巡らせた。この頃に開始したおかずＢＯＸは今でも続いている。常に「災害が起きたら」を想定して動いていた湯川さん。オープンと同時に話題になり、全国から 50団体がノミネートした地域再生大賞の優秀賞を受賞するなど大それた試みをしているように見られがちだが、「誰でもちょっと背伸びしたらできる取り組みでありたい」という信念を持っている。担い手が少しでも増えればと願う。

DIY NO IE

5

老若男女の拠り所

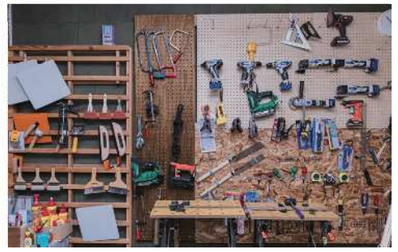
茶山台団地の新たな拠点として注目を集めている「DIYのいえ」。「としょかん」や「やまわけ」のスタッフが女性中心なのに対して、こちらは人生の大先輩である、おじさま達がハツラツと活躍している、そんな皆さんを束ねるのが、代表の中島さんだ。

空き家管理対策から中古住宅のリノベーションまで、家にまつわるあらゆる悩みをサポートする「カザールホーム」を手がける中島さんが、2019年2月より 16棟の1階で運営を開始。古くて狭いのでは?という今までの団地のイメージを払拭するべく、退去時の原状回復義務を緩和する公社の「DIY制度」を受けて、実際にDIYを教えてもらいながら身近に体験できる場所としてオープンした。本格的な電動工具や作業スペースが団地住民に限らず誰でも無料で使用できるセンセーショナルな取り組みは、DIY特有の音や匂い漏れを気にすることなく思う存分堪能できると大好評。「自分らしく部屋を変えられる」と入居者も増加。今や工作のお悩み相談場所として住民の拠り所となっている。中島さんが不在でも、DIYならお任せ!なおじさまスタッフが手取り足取りサポートしてくれるので、初心者はもちろん、手ぶらで来ても大丈夫。キッズルームも完備で、子連れでも安心して作業ができるのも嬉しいポイント。夏休みは特に自由工作に勤しむ茶山っ子の姿が多く見られた。「行灯が壊れた」と思い出の品を持って来たり、「こんな家具を作りたい」という相談にものってくれ、子どもの学習デスクを作りに足しげく通う親御さんも。

自らの手で住みよいまちに

使用者だけでなく、今ではスタッフにとってもかけがえのない場所となっている。外にコミュニティーを多く持つ女性とは違い、仕事をリタイヤして家にこもりがちになる男性が、人のために動くことで生きがいを感じているそう。みんなで知恵を絞って試作をしたり、もはやよろず屋のように手を動かすことが楽しいと目を輝かせる。懇切丁寧で、相談どころか、「貸してみ〜」と言って、パパッと製作までしてくれる頼もしいスタッフの皆さんだからこそ、依頼が次々とやって来るのだ。もしかしたら、依頼ではなくDIYチーム自ら「作ったろか〜」と作業に乗り出しているのかもしれない。困り事を放置できないのは、「やまわけ」の湯川さんと同じだ。そんな、〝ほっとけない精神〟で団地内のコラボレーションが生まれている。それは、「やまわけ」に行くとすぐに分かる。入り口の引き戸をはじめ、店内の随所に人の手が加えられた痕跡が見える。小上がりの壁に取り付けられた台や、カウンターの台がどれも折りたたみ式になっていて、現場を分かっている人にしか思いつかない狭小団地ならではの仕様になっている。

製作物としてだけでなく、マンパワーの協力体制も欠かせないコラボだ。ハロウィンゴミ拾いや、16棟マルシェ、壁画ワークショップなど、としょかん関連イベントには清掃や子ども達のサポートで、縁の下の力強い助っ人としても活躍。そういえば、スタッフの多くは地域の見守り隊に加入している。そんなお節介おじさんたちのお陰で、茶山台の平穏は保たれている。



5 6 7 | 1 4 3 2

1_ 毎年行われている夏休みの工作サポートは茶山台以外の小学生も参加 OK。2_ 公社団地内外から集まった、頼もしい有償ボランティアスタッフ「DIY のいえサポーターズ」の皆さんと。左端が中島さん。3_ 徐々に増えていった工具の数々。4_ 大蓮公園でのイベント出店は大好評。5_ レンタルスペースの「ピンクの部屋」でお肌のお手入れ会を実施。6 ,7_ キッズルームにはお手製の木工玩具がたくさん。親御さんの作業を待つ間に、簡単なオモチャを作ったりもできる。

INFO
堺市南区茶山台 2 丁 1 番 16 棟 101 号〜104 号
土・日 10:00 〜 17:00
※期間限定オープンのため SNS で要確認
Diy のいえ
chayamadai_diy

部屋数が増えてパワーアップ

誰もが無料で使えるDIY工房として茶山台団地16棟1階の2部屋で運営していた「DIYのいえ」が、2023年2月に大リニューアルを実施。2階の2部屋を団地らしからぬ異空間に変貌させた。「同じ団地でも壁紙を張り替えたり襖などをペイントすることで、ここまで変化する」というリフォームの見本として、またDIY制度で使用できるパーツも販売し、インテリアショップの役割としても機能させた。人との繋がりを大切に考える中島さんが次に行ったのが、リニューアルして垢抜けた部屋をレンタルスペースとして開放することだ。しかも工房と同じく、誰でも無料で使用できるというあまりにも懐の深いおもてなし。「地域で何かを始めたい」という人が初期費用を気にせず「せっかく始めたのにめげることがないように」また、「商売だけど楽しく続けてほしい」という願いを込めて、自身も経営者としての苦労を経験しているからこそ、スタートアップにかける想いはひとしお。「ここで実績を作って自信をつけて、次のステップに羽ばたいてもらえたら」と背中を押す。通称ピンクの部屋と、ブルーの部屋を現在貸出中。利用者は、マッサージにヨガ、ピラティスなどの癒し系から、パンやアイシングクッキー作りなどハンドメイド系、起業を考えるママさんのランチ会や性教育まで多岐にわたるラインナップで、リピーターも多い。茶山台団地住民だけでなく、どの地域に住んでいても利用でき、実際に様々な地域から問い合わせがあるそう。

茶山台団地の父親的存在

団地内外から訪れるお客さんのほか、「DIYのいえ」メンバーが外に出向くことも多くなった。以前から取り組んできたワークショップが好評で、地域のイベントや企業、幼稚園をはじめ、他市からのオファーが来ることも。廃材を使った木工ワークショップはSDGsの観点からも重宝され行政からの声がけがあったり、近隣の幼稚園では年長の全クラスが、板に釘を打つ練習をしに訪れるようになったりと、学びの場としても認知度が高まっている。もちろん、いつも「DIYのいえサポーターズ」と呼ばれるシニアスタッフが、懇切丁寧にサポートしてくれているのが心強い。夏休みには自由工作のサポートも毎年行っている。そうしたサポートやワークショップも無料や破格な値段で実施していることが多く、出張工作も無料で請け負っているそう。そこにも人との繋がりに価値を置いている中島さんの考えが垣間見える。修理や木工品製作の受注も、これまでに培った繋がりから発生し、近隣少年野球チームがグランド整備で使用するトンボは、こちらで一から製作しているんだとか。今までも、「やまわけ」での暑さ寒さ対策や狭さの解決、「としょかん」での収納問題など、事あるごとに素早く対応してきた「DIYのいえ」メンバー。何かあった時に力になってくれる貴重な存在として、これからも健康で長く続けてくれることを切に願う。

DIY のいえ
Cando

親御さんを待つ間にできる大人気のロボット作り

壁紙貼り。貼って剥がせて糊残りしない壁紙がオススメ

養生の仕方から教えてくれる壁塗り

子どもの学習机などオリジナル家具作りのサポート

壊れた木工家具の修理

やまわけキッチン入り口の引き戸など店内のあちこちを製作

こちらも Check!!
賃貸 de DIY つくろう家

公社が贈る、賃貸 DIY の新しいブランド「つくろう家」

CHAYAMADAI
HOKENSHITSU
6

「茶山台ほけんしつ」

団地住民のニーズから生まれた場所

「やまわけ」の隣に、介護、健康、医療の専門家が集まる、茶山台団地住民にとっての拠り所が２０２３年 10月３日に誕生した。「茶山台ほけんしつ」と命名され、カフェや相談会、健康体操、マッサージなど介護や医療に関するプロが来室し、曜日によって様々な専門分野の方と話したり、触れ合える場所だ。その背景は団地の集会所内にある「としょかん」に遡る。２０１６年、大阪府住宅供給公社と社会医療法人生長会が、地域コミュニティーの活性化や健康寿命の延伸を目的にした「まちかど保健室」を、19棟集会所の「としょかん」でスタート。２０１８年に茶山台団地の住民を対象に行ったアンケートで、「健康や介護に不安がある」「近隣の医療体制が心配」との声が多く、団地内に健康について気軽に相談できる場所があったら良いなという住民の希望から始まり「健康・医療・介護・子育て」をこの場所のテーマに設定。２０１７年11月から帝塚山学院大学が加わり、２０２２年10月からは社会福祉法人よしみ会も加わって「まちかど保健室」は定期開催されるように。

「オークカフェ」スタッフでもある社会福祉法人よしみ会の相談員がカフェを開いて生活の相談を受けたり、医師や看護師が医療相談会を開いたり、体操教室なども開催されて集会所が賑わった。「としょかん」で開催されていた「まちかど保健室」は、様々な不安や悩みを気軽に相談できる場所として団地や地域住民に好評を得て、新拠点で常設化へ。

「茶山台ほけんしつ」は、「まちかど保健室」と「出張オークカフェ」、新たに加わった「団地ライフラボａｔ茶山台」の三者が共同で運営することになった。２０２３年６月、空き部屋のリノベーション開始。床や天井、壁、仕切りを外してバリアフリー設計に。内装の完成後は住民参加型のＤＩＹワークショップも開催。８月８日には壁や襖に加え、事前に製作していた椅子をペンキで塗るイベントも実施。真っ白だった壁は一部が暖色系の茶色に塗られ、雰囲気も柔らかくなり、運動や相談スペースが落ち着きのある空間となった。場所づくりから関わることで、オープンした後のイメージや愛着が湧き、地域の方々との繋がりが増えて、新たなコミュニティーの構築が図られた。

INFO
堺市南区茶山台２丁１番 21 棟 301 号

まちかど保健室	火 10:00 ～ 11:30	月２回程度
出張オークカフェ	月 10:00 ～ 12:00	月２回程度
みんなの保健室	水・木 10:00 ～ 15:00、金 10:00～14:30	

danchi.life.labo

1. オープン初日の「まちかど保健室」。まずは健康チェックをしてから。記録としてストックされるので健康管理も担う。2_「みんなの保健室」でのレクリエーションタイム。身体の健康と安心に寄り添うコミュニティナースが在籍して、和気藹々とした雰囲気。3_「出張オークカフェ」相談員のお二人から、あえて「介護」についての話を始めることはないが、なぜかその話題になることが多いそう。福祉のプロが気心知れた仲なのは頼もしい限り。4_「まちかど保健室」でのエクササイズ。速いテンポの動きにも楽しみながら対応する住民の皆さん。5_ 内装の塗装ワークショップにて。自分達の手で DIY することでより愛着が湧く。6_ 場所は 21 棟の 1 階、やまわけキッチンのお隣。7_「みんなの保健室」のお茶タイムは、真剣な話も親身になってその道の専門家が聞いてくれる。

茶山台ほけんしつ
HISTORY

まちかど保健室、団地ライフラボ at 茶山台、オークカフェの 3 法人で運営

2023 年 6 月

空き家の床や壁紙、天井を剥がしてバリアフリー設計に

2023 年 8 月

真っ白い壁や天井に生まれ変わって 10 名ほど運動できる広さも十分

2023 年 8 月 8 日

住民参加型の内装 DIY ワークショップで壁や襖をペイント

2023 年 10 月 3 日

オープン時間の 10 時前なのにもかかわらず、外には行列が

2023 年 12 月

娘さんがお母様の健康維持を考え毎回欠かさず一緒に参加

リニューアルした「まちかど保健室」

初日は茶山台団地住民に馴染み深い「まちかど保健室」の開催日。オープンの 10時前から外には行列ができ、心待ちにしていた住民の思いが感じられた。「健康でいきいきとした暮らし」をサポートするためのミニ講座や、血圧・脈拍・血管年齢を看護師が測定してくれる健康チェック、体操教室が行われ、医療や介護に関するお悩み相談ができる。月に２回開催され、当日のミニ講座の内容は入り口に掲示されている。どんな講座を行うかは、住民から出た声を基に検討していくそう。来場すると、血圧、脈拍、血管年齢などを看護師が測定してくれる。測定の結果は専用の用紙に書き込み経過が追えるように記録。初日のわくわくと緊張で「血圧がいつもより高いわ」と言う住人もいた。測定が終了したら、動画を見ながらの体操。最初はゆっくりとした動きで、体操の内容を覚え、その後は音楽に合わせて動き座りながらダンスをするような要領で行う体操プログラム。動画には字幕が付いていて、同時に解説してくれるのでとても分かりやすい内容になっている。体操の後は少し休憩し、ミニ講座が始まる。初回は理学療法士の山本さんによる、筋力維持についてのお話。現代の日本人は運動不足の人が多いことや、運動不足にならないように歩く重要性を説明した。その後、筋力維持のための体操の時間も設けられていた。体験した住人には「こんなきれいで新しい拠点を作っていただいて、とても嬉しいです。体操で体をほぐして、健康に関することも知ることができて充実していました」と好評だった。

多様な企画で健康にアプローチ

月曜日は、子どもから高齢者までが集う憩いの場所であり、地域との繋がりが深い地域密着型特別養護老人ホーム併設のオークカフェで勤務する相談員の岡村さんと田淵さんが「出張オークカフェ」を開催。「介護の相談会」というと敷居が高いので、気軽に行ける場所としておいしいコーヒーやお菓子を楽しみながら、住民さん同士の会話の中で「介護」の話題になった時、すぐにプロに相談できる環境が整っている。オープンすると続々と住民が集まり、テーブルを囲んで話が弾む。テーブルは「皆が顔を見合わせて話ができるように」と、ＤＩＹのいえのメンバーが削って丸くしてくれたそう。重い空気感ではなく、普段の会話からの延長線で相談できる手軽さが魅力の一つだ。

水～金曜日は「団地ライフラボａｔ茶山台」が取り組む「みんなの保健室」。看護師の野本さん、ケアマネジャーの経験がある野津さん、英国リフレクソロジーの資格を持つ澤谷さんの３名が在籍している。２０２２年秋ごろ、隣の「やまわけキッチン」内でスタッフが住民と一緒に食事を取りながら関係性を築き、少しずつ体に関する不調などが聞けるように。現在は、水・木曜日は健康・医療に関する相談や健康体操、カフェの時間を設け、金曜日は澤谷さんによる「もみほぐし」を実施。それぞれの取り組みや参加している方々の特色も様々だが、共通するのは住民に暮らしの心地良さや安心を届けていること。「あそこに行けば大丈夫、なんとかなる！」と思える場所があるのは心強さを感じる。

ニコイチ®

「ニコイチ®」とは、団地の元々の規格である45㎡を
2戸繋ぎ合わせて90㎡にした住居のことである。

憧れの「ニコイチ®」だけじゃない
「リノベ45」もどんどん進化中

DANCHI
RENOVATION
7

CASE 01

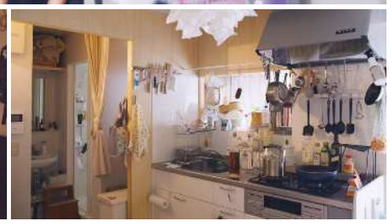
2022年度

暮らしを豊かにする「おもや」と「はなれ」

セパレートタイプのニコイチである前野邸。茶山台で住み続けたい思いと45㎡の団地では家族が多く手狭になったので広い場所を探し求めたところニコイチとマッチング。1部屋は寝食をともにして「家族の団らん」を楽しむ空間、もう1部屋は入浴や運動、趣味の時間など「じぶん時間」を楽しむ空間として、まるで母屋と離れのように活用している。木のぬくもりを感じられる内装と環境負荷の低減に配慮した躯体全体の十分な断熱により、サステナブルで豊かな空間を実現。

前野邸 MAENO HOUSE

整理収納アドバイザーとしても活躍する男の子3人のワーキングマザー

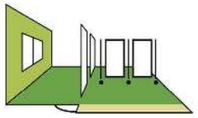


さらに!

2021年度

庭を楽しむ一戸建てのような家

茶山台団地で唯一の、部屋と庭との間にある1m程の高低差を活かしながら、デッキテラスを設けて外との繋がりを楽しめるプラン。庭の前は団地内の道が接しているため、歩行者と視線が合うことなく寛げるようデッキの高さを工夫。口の字壁の建具を開くと個室が集いの間に接続し、閉めるとプライベート性の高い個室に。昔の民家の暮らしをモチーフに、現代的な生活に対応している。一段上がったフリースペースを今は子どもの遊び場として利用。成長するにつれて自在に変えられるのが嬉しいところ。



45・55㎡の限られた空間を、より快適に暮らせるようにリノベーションした新しいニーズに寄り添ったプラン

リノベ45·55
rinov45.danchi-renovation

CASE 02

2021年度

上下階をアクティブに暮らす家

リビングダイニングやキッチンのある下の階を住む場所、ワークスペースや寝室のある上の階を働いたり寝る場所と仮定して「起きて、ごはんを食べて、働いて、休む」という行動を上下階を行き来しながら行うことで一日の生活のリズムやオンオフの切り替えをつくり出す設計。ポイントは、窓際に3ヶ所設けられたひだまりテラス。ベンチを設置することで普段座らない場所が生活の一部になったり、茶山台の豊かな自然環境と向き合うことができる、茶山台団地ならではのプラン。

＼私たちが設計しました／

ナノメートルアーキテクチャー
NANO METRE ARCHITECTURE

家具から公共建築まで幅広く手がける名古屋を拠点とした設計事務所